

授業改善推進中期プラン 国語〔小学校第6学年〕

昭島市立拝島第二小学校

学年等	項目	内容
令和4年度 第4学年 年度末	学習に関する児童の実態・課題	○順序立てて説明をすることができる児童が増えてきた。 ▲昨年度の学力テストでは、文章や段落の内容を読み取ること・ある程度の長さのある文章を書くこと・既習の漢字の書きとり・理由を挙げて相手に伝えることがより課題と出ている。理由を挙げて相手に伝えるということが出来ず、相手に気持ちが伝わらずにトラブルになってしまうという事例も日常生活で見られる。また、漢字テストでは新出漢字の出来が良いものの既習の漢字(前の学年のものも含める)を間違ってしまう児童も多いため。日記やノートなどを見ても習った漢字を使わずにひらがなで書いている様子も見られる。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年齢に適した本を落ち着いて読むことができるようにさせる。そのことを定着付け、集中力・語彙力を高める。また、国語をはじめとする読解力を身に付けさせる。 ・相手が伝えたい事や書いてある文章の意味を理解できる力を身に付けさせる。 ・新出漢字、既習の漢字ともに定着させる。 ・理由を挙げて相手に自分の考えや気持ちを伝える力を身に付けさせる。 ・ある程度の長さのある文章を書く力を身に付けさせる。
	具体的な授業改善の方策	・朝学習の時間には、学年齢を意識した本を落ち着いて読む時間を確保する。 ・全校朝会や校外学習などの時間には、積極的にメモを取るようして相手が伝えたいことを短くまとめさせる。(要約して書けるように促し、良くできた児童のメモを手本に見せる。) ・学習後の振り返りで、詳しく書かせる。自分の考えや思いからで良いので長く文章を書く習慣を付ける。 ・漢字の学習では、定期的に復習をし、習熟度を図る時間を取る。また、間違えた漢字を直して振り返る習慣を付ける。
	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・朝学習の取組から、集中力が身に付いた。 ・各教科で、まとめを自分の言葉で書くことを通して、自分の考えや思いを書く力が付いた。 ・習ったばかりの漢字は書けるが、習った漢字を日頃から積極的に活用しないので定着できていない漢字がある。
令和5年度 第5学年 年度末	学習に関する児童の実態・課題	○「読むこと」において、必要な情報を抜き出し、自分の考えをまとめる時に活用しようとしている。 ▲「話すこと」において、互いの立場や意図を明確にして計画的に話し合ったり、自らの考えを広げたり、深めたりすることができない児童が多い。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・意図や目的を明確にし、効果的な構成で文章を書く力。 ・効果的な接続語や指示語を使うとともに、限られた文字数の中に自分の主張が明確に伝わる文章を速く書くことができる力。
	具体的な授業改善の方策	・朝学習の時間において、語彙を増やし豊かな表現力の基礎を培うための読書に徹底して取り組む。また、10分間で原稿用紙1~2枚程度の文書の視写を3ヶ月程度行い、正しい文章表現ができるようにする。 ・国語科のみならず、各教科において拝島小授業力スタンダード20Ver.4を活用し、基本的な授業規律や授業の流れ、学習の深まりを追究していくことで、教員の授業力向上を目指し、児童の学力向上を目指す。特に、学習の振り返りの時間を確保するために、授業の流れや一単位時間の流れを修正する。 ・各教科において、児童の思考力・判断力・表現力を高めていくために、それを見取ることができる自作テストの作成をする。さらに、その際、連続テキスト(一連の文章等)、非連続テキスト(各種資料、統計等)を通して、多面的・多角的・総合的に自らの考えをもてる児童の育成を目指す。
第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・朝学習の時間において、語彙を増やし豊かな表現力の基礎を培うための読書に取り組んだが、まだ十分であるとは言えない。10分間で原稿用紙1~2枚程度の文章の視写を行ったことで、書くことに対する抵抗感が減少し、「学習感想」や論理的に説明する場面での文章表現力の向上が見られた。 ・各教科において、児童の思考力・判断力・表現力を高めていくために、それを見取ることができる自作テストの作成をした。さらに、その際、連続テキスト(一連の文章等)、非連続テキスト(各種資料、統計等)を通して、多面的・多角的・総合的に自らの考えをもてるようにしたが、差が見られたので、次年度でも引き続き指導していく。	
令和6年度 第6学年 年度末	学習に関する児童の実態・課題	○言葉の特徴や使い方を理解している児童が多い。全国学力調査では、教科学力は東京都の平均より高い。 ▲「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に課題がある。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・説明的文章から読み取ったり、調べたりすることを通して獲得した自分の考えを、連続テキストや非連続テキストを活用して論述する(発表する)力。読み取った情報と情報の関係付けの仕方、図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする力。
	具体的な授業改善の方策	・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるようにするために、授業では次の4点のステップを踏んでいく。①「相手や目的に応じて、話す(書く)の内容に合う資料を用意する。」→②「目的や意図に応じて、資料を提示するタイミング(場面)を検討する。」→③「目的や意図に応じて、資料を提示しながら話す(書く)内容について検討する。」→④「場面や相手を意識して、話し方について検討する。」
第6学年における児童の達成度と中学1年に向けての課題	○自分の考えをもつ力を伸ばすために、朝学習では児童が関心をもちやすい新聞記事を抜粋して行った。主題を捉えることについては十分な力を付けられなかったが、前向きに文章を読もうとする児童は増えた。 ▲文章を読むことへの関心を高めることができたので、そこから自分の考えをもち表現できる力を付けられると良い。	

授業改善推進中期プラン 算数〔小学校第6学年〕

昭島市立拝島第二小学校

学年等	項目	内容
令和4年度第4学年	学習に関する児童の実態・課題	○令和2年度の学力調査では、かけ算に関する問題の正答率は、目標値に対して+6.8ポイント以上取れていた。また、時刻と時間の正答率は、目標値に対して同じか+7.7ポイント取れていた。 ▲令和2年度の学力調査では、特に余りのある除法の答えの確かめ方を説明する記述問題に大きな課題があった。しかし、わり算の説明の記述問題は、目標値に対して同じ位のポイントだった。また、10000より大きい数、わり算の計算は目標値に対して-13.6ポイント以下で大きな課題が見られた。長さ・重さ、円と球の選択問題に関しては、目標値に対して-7.7ポイント以下で課題が見られた。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・既習事項を用いて場面を式や図、言葉を用いて筋道立てて説明する力を付けるとともに、友達の考えと自分の考えで似ていることや違うことなどを関連付けて考えることができる力。 ・学校で習ったことを日常生活で生かす力。
	具体的な授業改善の方策	・毎時間、既習事項を確認し、今まで習ったことと新しく習うことを繋げて考えさせる習慣をつくる。 ・式の意味を読み取る力を付けるため、立式の根拠を説明する場を設ける。 ・自力解決後、自分の考えを伝える場を設定し、式や図、言葉を使って筋道立てて説明する力を付ける。 ・振り返りの時間を確保し、学んだことを日常生活に生かすにはどうしたら良いか、生かしたことを発表する場を設ける。
令和4年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・既習事項の確認をすることで、今まで習った内容と、新しく習う内容をつなげて考える力が付いた。 ・立式の根拠を説明する場を設けたことで、自分の考えを言葉・式・図を使って説明できるようになった児童もいるが、まだ難しい児童もいるので引き続き取り組む必要がある。 ・学んだことを自主学習を通して、生活に生かそうとする児童も見られたが、学習したことを生かす姿が見られない児童もいるので引き続き取り組む必要がある。
令和5年度第5学年	学習に関する児童の実態・課題	○数直線を使う習慣が身に付いてきたことで、正しく立式できる児童が増えた。 ▲CD層の児童が算数では特に多い。自分の考えを筋道立てて説明できる児童が少なく、論理的思考力に課題が見られる。特にわり算(3桁÷2桁)でつまづいている児童が多い。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・既習事項を用いて、数量の関係・図形の構成要素などを式や図、言葉を使って自分の考えを筋道立てて伝えるとともに、友達の考えと自分の考えを比較関連付けて考えることができる力。 ・基準量、比較量、割合の関係性の確実な理解と活用する力。 ・日常生活の諸場面における問題を数学的に解決していくことができる力。
	具体的な授業改善の方策	・習熟度に応じた学習課題を工夫し、自力解決後、小集団で自分の考えを伝え合う場を設定し、学び合いを通して全体の場で筋道立てて説明する機会を設ける。 ・児童が基準量・比較量・割合の関係を正しく認識できるように、継続して授業で数直線を活用していく。 ・論理的に説明する力を育成するために、式の意味を読み取ることや、生活場面の諸問題を算数で学んだことを基に解決するよさを理解できるようにする。 ・自作テストの有効活用や、「学習の振り返り」の時間を確保し、日常生活に学習したことを生かしていけるよう意図的な授業展開をする。
令和5年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・「割合」の単元において、基準量・比較量・割合の関係を数直線を活用して解決できる児童が増加したが、問題の正しい理解(読解)が不十分な児童が約10%いる。国語科において、主語・述語の対応関係を重視するなど、言語学習の一層の徹底が不可欠である。 ・学習の振り返りの時間は各学級で丁寧に取り組むことができ、児童自身が自らの生活と学習内容の関連性について考えることができた。今後は、その生活と数学的な考え方の関係を、実際の生活に生かすことができるようにさせる工夫(自作テストや学校生活全般)が、必要となるので、来年度も引き続き指導していく。
令和6年度第6学年	学習に関する児童の実態・課題	○全国学力調査では、平均で見ると全国平均を超えているが、校内での分布は4割と8割の二山できている。 ▲速さ等の割合に関する問題を解く力が身に付いていない。また、問題場面を想像できず、正しく立式することについて課題が見られる。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・基準量、比較量、割合の関係性の確実な理解と活用する力。日常生活の諸場面における問題を数学的に解決していくことができる力。
	具体的な授業改善の方策	・児童が基準量・比較量・割合の関係を正しく認識できるように、継続して授業で数直線を活用していく。また、文章問題では、場面を想像できるように絵や図等をかく活動を取り入れる。「学習の振り返り」の時間を確保し、日常生活に学習したことを生かしていけるよう意図的な授業展開をする。
令和6年度末	第6学年における児童の達成度と中学1年に向けての課題	○数直線を用いて理解しようとする児童は多く見られた。 ▲一方で、積み重ねの差が大きくなっていったので、量感を身に付けさせ、明らかな誤答を減らせるようにしたい。